



北谷直樹 Naoki KITAYA チェンバロ

北谷直樹は日本で生まれ、はや青年時代からヨーロッパの舞台で活躍している。ニコラウス・アーノンクール、ヨハン・ゾーンライトナー、アンドレアス・シュタイアーに師事。チューリッヒ音楽大学で通奏低音の教鞭を執った後、現在はチューリッヒを拠点としてフリーの演奏家として幅広い活動を行っている。

情感のこもった演奏の中に巧妙な技術を駆使し、音色は色彩的表現に富み、高い即興的流麗を醸しだしている。マスメディア全般からの絶賛を受ける。

ソリスト活動と平行して、世界的名歌手のチェチリア・バルトリを筆頭に、ヒラリー・ハーン、ジュリアーノ・カルミニョーラ、ダニエル・ホープ、リッカルド・ミナージ、モーリス・シュテガー他と定期的に共演している。

中でもバッハの作品解釈においては、幾度にも及ぶラインハルト・ゲーベルとの共演において強い刺激を受け、作品解釈のための知識と実践におけるコンセプトを得た。

音楽監督、アンサンブルリーダーとしても非凡な腕前をもち、ヨーロッパ各地にてバロック器楽曲やオペラ曲などの演奏を率いており、近年ではエマ・カークビーをゲストに迎え、レオナルド・レオ「サルヴェ・レジーナ」などを演奏した。

日本においては2011年、13年、16年とアンサンブル金沢へ招聘され、バロックのみならずフィリップ・グラスなどの現代曲まで幅広いプログラムを率いている。

コンクールの審査員としては2006年ボン、2009年ベルリンで催されたドイツ音楽コンクール Deutsche Musikwettbewerbに、ヴィーランド・クイケン、ミハエル・シュナイダー、シェティル・ハウグスサンドと共に審査に参加。2012年には国際古楽コンクール(山梨)の審査も務めた。

北谷の音楽に捧げる情熱はバロックだけに留まらず、クラシックからジャズ、ポップ、さらに伝統的な東洋と南米の音楽へと幅広く及んでいる。

ドイツ・グラモフォン、ハルモニア・ムンディ・フランス、ソニークラシック等多くのレーベルからCDが多数リリースされているが、中でも、独奏曲「ルイ・クーブラン」と「ヨハン・セバスチャン・バッハ」への評価は殊更高く、「クラシック・トゥデイ」<http://www.classicstoday.com>「クラシックホイテ」<http://www.klassik-heute.de>にて10点満点の評価を得た。

今回の山口・赤れんがでのコンサートには16世紀英国、17世紀フランスとイタリア、18世紀ドイツそして21世紀スロヴェニアの作曲家による作品をとりあげます。

中でもスロヴェニアの現代作曲家ミルコ・ラザールの「ファウスト組曲」から転用されたヴァイオリンとチェンバロの為の組曲「マーガレット」からの2曲は今回が世界初演となり、これらヨーロッパ各国の時代を超えた作品を山口の皆さまにお聴き頂けるのは大きな喜びです。

北谷直樹 2017年11月27日 サンクトペテルブルグにて

杉田せつ子 Setsuko SUGITA ヴァイオリン

東京藝術大学音楽学部器楽科(ヴァイオリン専攻)を卒業後、ウィーン国立音楽大学に留学。1996年から2010年まで茨城大学教育学部に講師を務める。これまでに浦川宜也、澤和樹、徳永二男、田淵洋子、フランツ・サモヒル、エンリコ・オノフリの各氏に師事。日本室内楽コンクール入選、パルマ・ドーロ国際音楽コンクール(伊)最高位入賞。ある日、モダン・ヴァイオリンの最高音の線(E線)に、ナチュラル・ガット弦(羊腸弦)を張って演奏してみたところ、それまで抱いていた金属のE線への様々な不満(音色、表現力、感触)が払拭されたことをきっかけに、2005年秋、バロック・ヴァイオリン(オリジナル楽器/ピリオド楽器)を使用する演奏の魅力に開眼し、以来バロック音楽の演奏を活動の中心に置く。オノフリ指揮ディヴィーノ・ソスピーロ(ポルトガル)に



これ迄多数の公演や録音で参加。オノフリのソロCD「バロック・ヴァイオリンの奥義」においてはテレマンのガリヴァー組曲に参加(二重奏)。2007年にオノフリ氏命名の古楽プロジェクト「Cipango Consort(チパンゴ・コンソート)」を立ち上げ、以降来日公演、共演公演の企画運営を積極的に行い、その公演はCDジャーナル、モーストリークラシック、音楽の友、などの音楽関係各誌上において年間ベスト10やベスト5のコンサートとして選出されるなどした。2013年のエンリコ・オノフリwithチパンゴ・コンソートの公演の様子は、NHK-BSテレビ「クラシック倶楽部」及びNHK-FM「ベストオブクラシック」にて繰り返し放送され更に話題となった。これまで独奏者としても、音楽の友、モーストリークラシック、レコード芸術の各音楽誌上で多くの評論家から高い評価を得ている。ウェブサイト <http://setsukosugita.com>



C・S赤れんがのチェンバロ

チェンバロとは16-18世紀にヨーロッパの貴族の象徴としてひろく用いられた鍵盤を持つ撥弦(はつけん)楽器。その時代や国によって独特な作り(製作技術)をしています。トリの羽軸(うじく)などで作られた小さな爪(プレクトラム)が金属製の弦を下から上へはじくことによって発音されます。

1551年、フランシスコ・ザビエルがキリスト教布教の許可を得るため、



大内義隆に「マニコルディオ」という楽器を贈りました。「マニコルディオ」とは小型で箱形の楽器でしたが、その後改良されてチェンバロになったと伝えられています。

1995年、山口市はこの史実にちなんで、大内氏の家紋「大内菱」とザビエルの紋章を施したチェンバロを製作しました。爪にはコンドルの羽軸を使っており、優雅で華やかなその音色は聴く人を魅了しています。

【仕様】18世紀フレンチモデル 2段鍵盤 音域5オクターブ 全長236×幅94×高さ98cm
【製作】佐藤裕一氏(神奈川県) 【装飾】高倉由美子氏(宮城県)

クリエイティブ・スペース赤れんが

OPEN 9:00~17:00

休館日=毎週月曜日、祝日の翌日、12/29~1/5

〒753-0088 山口市中河原町5-12

TEL083-928-6666 FAX083-928-6611

✉renga-ya@c-able.ne.jp

<http://www.akarenga.jstphbs.jp/>

C・S赤れんがへの交通アクセス

- 山口宇部空港から→高速連絡バスでJR新山口駅まで34分、JR山口駅まで59分
- JR新山口駅から→JR山口線にて山口駅まで23分、同駅より徒歩10分
- お車での来館・・・山陽自動車道(防府東IC下車)、九州・中国自動車道(小郡IC下車)より、共に30分

